

福移の半世紀の苦闘

福移の低地新聞

発行元

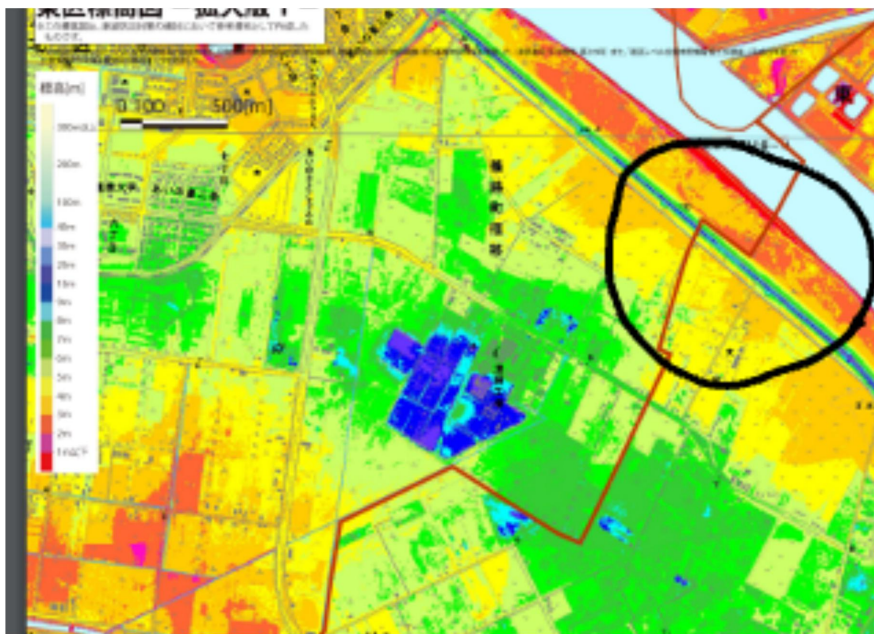
5 年福移学園

白砂朝陽

低地の苦難 克服

福移には、低地が多くあります。半世紀にわたり、低地と向き合ってきました。低地を克服し、低地を活か

す。福移は、低地と、真摯に向き合い、解決していきましました。写真は、福移の海抜です。ほとんどは、海抜



東区の標高図（丸のところが福移です）出典国土交通省北海道開発局札幌開発部

1.5~4mです。それは、福移の水害についての、徹底解説に移ります！まずは水害。明治31年雪解けを境に、大洪水が発生。そして、明治31年は、豪雨で深刻な被害。37年には河川氾濫で全村浸水。しかし、明治43年、石狩川治水工事開始。大正5年に、堤防の工事開始。昭和7年、石狩川治水工事第一地区工事完了。大正8年堤防完成。その後、水害はありません。石狩川の治水工事の基礎を築いたのは、廣井勇の弟子、岡崎文吉でした。文吉は、「岡崎式単床ブロック」というものを開発した人です。岡崎文吉がすごい人ということがわかりますね。水の郷テュ・ベツでは湿地を増やすための取り組みが行われています。石狩平野の湿地は99%以上消えています。福移は貴重な湿地なので、守っていきたいです。

低地を生かした農業

福移は、低地を克服するだけでは終わりませんでした。低地をしつかり活かして、生活を豊かにしてきました。

では、石狩平野の湿地を増やし、湿地特有の生き物を保護する取り組みが行われています。

あとがき 私はこの新聞を通して、福移開拓の歴史と、石狩川が周辺にある難しさを知りました。今の福移は、多数の人々の苦闘、知恵があつてこの福移があるのも知りました。低地を克服し、低地を活かす。しかし、水害を克服しましたが、これで、水害の心配がないとは限りません。なので自分で福移に貢献したいと思いました。



福移の低地の写真（矢印のところに石狩川があります）